



倫理委員会 ニュースレター

第14号 研究倫理：オーサーシップと二重投稿・分割投稿

福田 友秀（倫理委員会）

本学会は設立 20 周年を迎え、学術集会や学会誌を通して価値ある発表や論文が多く蓄積されています。臨床・教育の場での実践が研究となり、クリティカルケアの基盤となっていく一方、投稿に関しては研究倫理を順守することが求められます。研究倫理上の不正を疑われると、研究の信頼性を損ない、投稿者の今後に影響する重要な事案に発展する可能性があります。

今回は、「日本クリティカルケア看護学会誌の投稿に関する不正行為防止のためのガイドライン」（以下、ガイドライン）¹⁾に沿って、“オーサーシップ”、“二重投稿”そして“分割投稿”を取り上げます。



キダチペゴニア
「親切」「大志」

1. 適切なオーサーシップ

1つの研究を複数の研究者(チーム)で実施する場合、演題や研究論文を作成する段階で、どこまでのメンバーを著者に組み入れるかで困ることがあります。オーサーシップとは「著者資格」を意味し、本学会では、ガイドラインで以下の通り定めています(表1)。研究協力の約束をして、結果的に貢献度が低い場合は、演題や論文の著者となる資格を満たすことができません。

表 1:日本クリティカルケア看護学会が示す著者の条件

<p>1) 研究の着想と企画, データの取得, 分析, 解釈に実質的な貢献をしている. 2) 論文の知的内容を執筆または改訂している. 3) 投稿論文の最終版の内容を承認している. 4) 論文の内容に関する説明責任を果たすことに同意している.</p>

2. 不適切なオーサーシップ

近年、一部の国際誌では、研究において著者が果たした役割(author contribution)を論文中に明示するようになってきました。研究成果を世に発信するには社会的な説明責任が伴います。それぞれの研究で、各著者の役割を説明できる状態にしておく必要があります。一方、ガイドラインには不適切なオーサーシップにも言及されています。これは著者資格のない人を著者としたり、あるいは排除したりする行為です(表2)。

表 2:日本クリティカルケア看護学会が示す不適切なオーサーシップ

<p>ゲスト・オーサー: 当該研究に貢献はないが, 論文出版の可能性を高めるために著者としてすること. ギフト・オーサー: 当該研究に十分な貢献はないが, 「ギフト(贈り物)」として著者としてすること. ゴースト・オーサー: 当該論文に相当の貢献をしているが, 研究自体への貢献を評価せずに, 著者から排除すること.</p>
--

研究を実施するためには各施設で色々な制約があると思います。しかし、不適切なオーサーシップは、読者が研究者のテーマを深く知ることを妨げ、最終的に研究者の信頼を損ねます。研究代表者(筆頭著者や責任著者)は研究の信頼性を確保し、読者の利益を最大化するという観点からオーサーシップに関心を持って頂ければと思います。

3. 二重投稿

学術誌は原則的に、同じ論文を同時に複数の雑誌に投稿することを禁じています。査読者や読者は、自分が目にして論文はオリジナルのものであることを前提にしています。特に、担当編集委員が査読者を探し、査読者が時間的・能力的リソースを割いて論文を審査するという一連のプロセスは、多大な労力を必要とします。内容が重複する論文を投稿するという行為は、このプロセスを阻害し、他の研究論文の査読にも影響します²⁾。論文の査読をしていると、研究目的や研究方法が酷似しているものに出くわすことがあります。それぞれの研究者が専門にしている研究課題・手法がありますが、研究目的や結果が明確に異なり、それを説明できることが必要です。

本学会では、学会・研究会等の抄録集、講演集、各種報告書（ただし、論文集といった名称のつくものはこれに該当しない）¹⁾として出版されたものを論文の体裁を整えて投稿した場合は二重投稿とみなさないと規定されています。これは、学会発表を経て、投稿論文とする際にはさらなるデータや知見が付加されることが期待されているためです。

4. 論文の分割

論文の分割とは、一本の研究論文で報告できる研究を複数の研究論文に分割する行為¹⁾であり、サラミ論文(salami slicing)ともいわれます。分割されたデータで物事を論ずるのは、本質を見失ったり、曲解する可能性があるため、好ましくありません。また、誤った解釈による論文が公表されると、読者に研究結果の理解の偏りを生むことや、メタアナリシスの結果をゆがめることで、学術の発展を妨げる³⁾可能性があります。論文の分割によって研究者の論文数は増えますが、論文の質は低下することが懸念されます。読者は質の高い研究論文を期待していますので、同一の仮説・母集団・方法の研究は、1つの論文としてまとめることが適切です。

一方で、大規模な研究では、関連する研究が複数の論文となって出版されていることがあります。この場合には研究課題、分析方法、評価項目など、先行研究と明らかに異なるトピックが含まれ、研究成果が別個であることを説明できることが求められます。

5. 論文不正を疑われないようにするために

論文に関する不正行為は、研究倫理的にあってはならないことですが、看護研究の多くは臨床で収集されたデータを扱う特性があり、実際に大規模研究における複数論文発表の実例があることから、その線引きに迷うことがあるかもしれません。

その際には、透明性を確保するためにも学術誌編集委員会に判断をゆだねるという選択肢もあります。その際は、カバーレターに関連する研究論文がある（出版されている、または投稿中である）旨を明記し、①適切な先行研究の引用 ②二つの研究が異なるものであること ③先行研究と比較した新たな知見 の3点を明示し、関連する研究論文を添えて投稿します。論文が適切な査読プロセスを通過し、正当性を確実にするためにも、研究倫理の感受性や必要な手続きを経ることが大切です。

引用・参考文献

- 1)日本クリティカルケア看護学会(2022).日本クリティカルケア看護学会誌の投稿に関する不正行為防止のためのガイドライン.<https://www.jaccn.jp/anti-fraud/>
- 2)Wager E. (2009). Why you should not submit your work to more than one journal at a time. African journal of traditional, complementary, and alternative medicines: AJTCAM, 7(2), 160-161.
- 3)日本小児科学会(2021).二重投稿・二重出版に関する判断基準と取り扱い
https://www.jpeds.or.jp/modules/publications/index.php?content_id=72

(発行日：2023年11月13日)